



K 中 通 信

学校だより 7号
令和2年9月18日
横浜市立軽井沢中学校

【学校教育目標】『主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします』

- 様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます (知・徳・公)
- 持続可能な社会の実現を目指し、しなやかに生きる力を育てます (体・開)

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/karuizawa/>



戻ってこい 秋刀魚の背中についてこい

校長 星野 久美子

9月24日、3年生は東北修学旅行に出発します。巻頭の句は、1年時で学ぶ宮城県女川の中学生の句です。修学旅行先で学習を深める中、生徒たちにとってこの句の意味が変化していくのではないのでしょうか。感染症流行の中、様々な制約があり細心の注意をはらっての旅行となりますが、学びを止めず人々の思いを語り継いでいきたいと思えます。

9月4日、横浜市におけるGIGAスクール構想が発表されました。この構想の社会的な背景として「主体的・対話的で深い学びの実現」「自然災害や感染症等の発生」や、学校がもつ課題や背景の多様化として「不登校児童生徒の増加」「様々な障害への対応」等を挙げ、今までの横浜の教育実践とともに最先端のICTのベストマッチを図るとあります。ここでは具体的な内容について、横浜市におけるGIGAスクール構想【概要版】より抜粋します。

端末の整備

令和2年度中に市立学校(小学校・中学校・特別支援学校(小・中学部))に在籍する児童生徒及び教職員に「1人1台」の端末の整備を進めます。中学校については、「起動が速く、クラウドサービスとの親和性が高い」「複数のWeb情報を表示して信ぴょう性を判断する学習が可能」等の理由から「Chrome 端末」が選定されました。

1人1アカウントの配布及びクラウドサービスの試行・活用

アカウントの配布、基本となるクラウドサービスの選定、研究・研修など活用できる環境を整えます。「基礎となる授業支援クラウドサービス」として、一部の学校において、「Google」が提供する教育機関向けのクラウド型グループウェア「G Suite for Education」(以下 G Suite)や、授業支援アプリケーション「ロイロノート・スクール」の試行を行ってきました。現時点では1つに限定せず、両者の特徴を生かし、場面に応じて使い分けながら今後の活用方法等について更に検証を進めていきます。

オンラインを生かした取組

令和2年6月に全学校において「Web 会議システム(Zoom)」と「学校 YouTube チャンネル」の活用を可能としました。

「ロイロノート・スクール」については、災害時や感染症流行のための臨時休業中の学習支援ツールとして活用できることから、家庭端末の利用も想定して保護者の皆様に同意書のご提出をお願いしたところです。ICTは非常に利便性が高いものですが、反面、これまで以上にインターネットの適切な利用や個人情報の管理、責任ある行動が求められます。安全かつ適切に情報を取り扱うためのルールや、端末の管理・運用の仕方などについて随時お知らせいたしますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。